

# 歴史文クラブ4月研修会

「近江路、湖西の道」 杉本 登



平成 28  
年 4 月 26  
日 (火) 歴  
史文クラブ 4  
月研修会の  
当日は、素  
晴らしい天  
気であった。

今回のテーマは「近江路、湖西の道」渡来人の足跡を尋ねてである。おうみの国は古くは淡海の国と呼ばれていた。中央に琵琶湖を有する豊かな国であり、古来から渡来人が多く定着した。近江は藤原氏の領国であり、藤原不比等の尊称は淡海公である。近江は京に近く、近江を制する者は天下を制すと言われ、古来権力者の争奪の地であった。

当日は晴天の下、27名の参加者があった。バスは予定通り西大寺を出発し、大津の三井寺に到着、ボランティアガイドの出迎えを受けた。最近はどこでもシアターのガイドが現地を案内してくれるので便利で助かっている。三井寺は飛鳥時代に創建され貞観8年(866年)に円珍により再興された。しかし、豊臣秀次を匿ったため秀吉により寺は破却され、多くの建物は延暦寺に移された。秀吉の死後、高台院(ねね)や徳川家康により伽藍は再建され今日に至る。そこで国宝の金堂を始め多くの建物は江戸初期のものである。



壬申の乱後、天武天皇が都を飛鳥に戻したのでわ

次に近  
くの大津  
市歴史博  
物館で学  
芸員より  
近江京遺  
跡の話  
を聞いた。  
近江京は

ずか5年の都であり、まぼろしの都と呼ばれていた。長くその場所が特定できていなかったが、現在の大津市錦織地区がそうであることが近年の発掘調査の結果判明した。

**新羅善神堂**(しんらせんしんどう)は三井寺の北東に建つ社殿で、円珍が創建した。祭神は新羅明神である。源氏に所縁の深いところで何度も兵火に焼かれたが、源頼朝や足利尊氏により再建された。趣のある社殿は檜皮葺三間社流造で国宝である。午前中の探訪が終わったところで坂本に移動し昼食である。日吉大社の前の**鶴喜そば**本店に入る。この店は享保元年(1716年)の創業で300年の歴史があり、宮内庁にも納入している有名な店である。事前に注文しておいたそば定食(暖かいそば)を食べたが、なかなかうまいそばだった。

今度は、冷たいぶっかけそばにとろろをかけて食べたいものである。(断然うまい、と古川さんから教えてもらった)

午後は小野地区に移動し小野神社(餅、菓子の神様)、小野篁神社(学問、使節の神様)小野道風神社(書道、学問の神様)を回った。いずれも古風な由緒ある神社である。かつては国宝であった社殿の傷みが目立つのが惜しい。小野氏は日本書記に大和和邇氏の祖であるとの記載がある。諸国に多い小野の地名、氏族の発祥の地である。小野氏の有名人を挙げれば、聖徳太子の御世に初めて隋に使いした**小野妹子**(おののいもこ)がまず挙げられる。次に平安初期の漢学者、歌人の**小野篁**(おののたかむら)がいる。書道で有名なのは**小野道風**である。柳に飛びつく蛙を見て書道に励もうと一念発起した話はよく知られている。**小野小町**も絶世の美人であり歌人としても有名である。百人一首に小野篁と小野小町の歌が残っている。「わたのはら 八十島かけて こぎいでぬと 人には告げよ あまのつりぶね」小野篁「花の色は 移りにけりな いたづらに わが身世にふる ながめせし間に」小野小町 近江の国は広い、今回は湖西の一部のみの探訪で湖北や湖東には行く時間はなかったが、ゆっくりと歴史を楽しみおいしいそばを食べ、帰路についた。

参加者の皆様にも楽しんで頂けたものと思う。